

## 【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

### 税と私の関わり

日南市立南郷中学校

二年 橋本 凜音

「あれ？どうして今日はお金を払わなくていいんだろう。」

それが私が税金に対して初めて興味を持った瞬間だった。

私は定期的に病院に通っている。ある日、母が病院で会計をしているのを隣で見っていた時のことだ。

「本日はお支払いはありません。」と会計の方に言われた。疑問に思い聞いてみると、母は

「今日は二回目だからよ。日南市は色々支援してくれるから、比較的子育てがしやすい環境で助かる。」

と答えた。

何となくその理由が気になり、調べてみた。私が住んでいる日南市では、十五才までの子供が病院に行った時、一診療報酬明細（一月一医療機関）ごとに二百円負担すれば、あとは日南市が税金で医療費を助成してくれていることが分かった。

私が知っている税金は消費税くらいで、あまり身近だけに、何も感じていなかった。しかし、私自身が知らないうちに税金にお世話になっていたことに驚いた。そこで、他にどんな事に税金が使われているのかを調べてみたら二度驚いた。

あんなに私とは関係ないと思っていた税金だが、私の周りは税金の恩恵にあふれていた。当たり前のようにもらっていた教科書も、学校の建物も先生方も、通学路もすべて税金のおかげで、上げたらきりがなくらいだ。逆に税金がなかったら、今のような快適な生活は出来ていないと考えられる。

日本では現在、少子高齢化が進んでいて、安定した税收は得られなくなる上に医療費や福祉に税金が多く使われるようになってくると予想されている。特に私の住んでいる日南市のように若者より高齢者の方が増えている地方自治体では、将来的に税の仕組みの見直しが必要になってくるだろう。そうになると、国民一人あたりの税額もおのずと増えると思う。それを支えていくのは私たちだ。

これからは、未来を支えていく一員として他人事だと思わず、もっと税金について学び、理解を深め、義務ではなく本当の意味で納税ができる大人になりたいと思う。